

第16章 試験II（音声試験）対策

1 試験IIの概要

試験IIは全て音声を媒体とした問題です。30分間で40問の出題があります。音声を媒体としますが、音声学・音韻論の分野にとどまらず、具体的な教授場面での指導法や文法に関わる知識も問われます。1問ごとにじっくり考える時間ではなく、次の出題までの10秒ほどの時間でテンポよく解答していかなければならないため、事前の対策と訓練が非常に大切です。

試験IIは、年度ごとに大きな変化がなく、毎年ほぼ同じパターンで出題されます。そのため、試験Iや試験IIIに比べて対策が立てやすく、マスターすれば確実に点数を取ることができます。過去問の音声を、一語一音をまるごと覚えるまで繰り返し聴くことが有効です。

各問題の形式は次のとおりです。

問題1	学習者の発話を聞き、学習者の発話と同じアクセント形式を選ぶ。
問題2	学習者の発音上の問題点を選ぶ（拍の長さ、プロミネンス、アクセント、イントネーション、ポーズ、特殊拍など）。
問題3	学習者の発音上の問題点を選ぶ（口腔断面図、声帯振動、調音点、調音法、唇のまるめ、舌の高さ、舌の前後位置など）。
問題4	教師と学習者の会話、日本語母語話者同士の会話などを聞いて、問い合わせる。
問題5	日本語学習者向けの聴解教材を聞き、出題意図や問題点を答える。
問題6	学習者の話す短い文を聞き、誤りの種類を選ぶ。